

武雄

源頼朝の戦勝祈願

【起源】

武雄の流鏑馬は、源平争乱の時代にさかのぼります。平家追討を進めていた源頼朝は、武雄神社に使者を送り、戦勝を祈願しました。武雄神社の使いとされる白鷺が源氏を守護したこともあり、頼朝は戦に勝利したと伝えられています。

その後、文治2年（1186年）、頼朝は戦勝の報告と神恩への感謝を伝えるため、武雄神社へ御教書を送り、勅使や使者を派遣しました。これを迎えた武雄の領主・後藤宗明は、頼朝からの使者をもてなし、流鏑馬を奉納したと伝えられ、これが、「武雄の流鏑馬」の始まりとされています。

射手インタビュー



藤武会
古場 哉平さん

小学2年生の時、祖父と一緒に藤武会の乗馬クラブに行ったことがきっかけで、中学生の頃から射手を務めています。普段は仕事をしながら、馬にどって過ごしやすい涼しい時間帯を選び、限られた時間の中で練習しています。流鏑馬は馬のスピードに合わせて矢を放つタイミングが難しく、当日はプレッシャーを感じることもありますが、800年以上続く神聖な伝統行事に携わることができる感謝の気持ちを胸に、一射一射、矢を放っています。テレビで見ると迫力があるので、ぜひ会場に見に来てほしいです。



時を越え、駆ける。



見どころ

御船山と武雄神社を望みながら、馬と射手が馬場を進む姿は、武雄の流鏑馬ならではの美しい光景です。砂塵を巻き上げて250mの馬場を駆け抜け、馬上から3つの的を次々と射抜く姿は勇壮です。

武雄の流鏑馬の特徴



勅使行列・流鏑馬行列

御神馬や勅使（天皇の使い）らが着用していた色鮮やかな装束を身にもって盛大な行列を作り、鎌倉時代の雅な雰囲気を再現しています。



白鷺の舞

流鏑馬が終わった後、射手が武雄神社の使いとされる白鷺の翼のように両手を左右に大きく広げて馬場を駆け抜ける美しい儀式です。



250mの馬場

長大な馬場は、全国でも類を見ない規模を誇ります。

武雄神社 流鏑馬

金
10/23

- 10:40～11:40
勅使行列・流鏑馬行列
上り馬（八並～武雄神社）
- 12:00～13:30
神事（武雄神社）
- 13:30～14:00
流鏑馬行列
馬場見せ
- 14:00～15:00
奉射（武雄神社参道）
- 15:10～16:30
勅使行列・流鏑馬行列
下り馬
（武雄神社参道～八並）

インタビュー

武雄流鏑馬保存会



会長
谷口 健二さん



実行委員長
古賀 哲昭さん

武雄の流鏑馬は、八並区、下山区、武雄区、前夜祭のエイトウは甘久区が協力し、地域の皆さんの理解と支援を受けながら、長い歴史をつないできました。本番に向けて、的や縁起物の「射手ふち」、足軽弁当、しめ縄などを地域の人たちが手作りしています。先輩たちから作り方を聞きながら、昔からの技術を受け継ぐ一方で、人集めや動員をお願いなど、見えないところでも多くの人が流鏑馬を支えています。流鏑馬は形として残るものではなく、人から人へ伝えていかなければならない文化です。だからこそ、後継者を育て、子どもたちに流

鏑馬への思いをつないでいくことが大切だと考えています。また、流鏑馬は地域の皆さんの願いや祈りを込めて行うもの。神聖な場所で、先人たちが抱いていた思いにも心を寄せながら、感謝の心を次の世代へ結びつけていきたいです。当日は、会場から歓声が上がったときや、子どもから高齢者の皆さんが手を振って待っていてくれる姿を見ると、「続けてきてよかった」と感じます。市民の皆さんからいただく声やエネルギーを力に、これからも武雄のふるさとをみんなで盛り上げ、伝統を未来へつないでいきたいです。